

## さいたま新都心東西連絡路（大宮ほこすぎ橋）

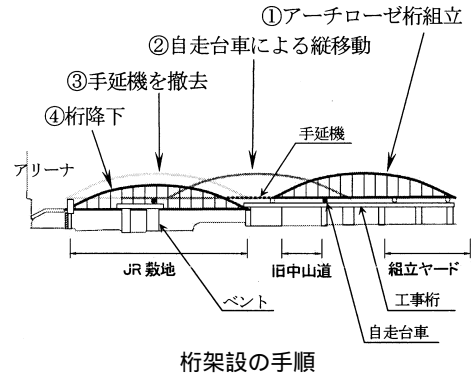
受賞機関 さいたま市

### はじめに

大宮ほこすぎ橋は、さいたま新都心の北側に位置し、JRで分断された新都心の北側の街区と大宮及び氷川参道からの歩行者ネットワークを形成するために計画した。新都心「けやきひろば」の緑空間とさいたま市の歴史的・文化的資産である氷川参道を繋ぐ『緑の回廊』をキーコンセプトとしている。



大宮ほこすぎ橋全景



桁架設の手順



大宮ほこすぎ橋（夜景）

### 施設概要

橋 長：約180m  
有効幅員：7～10m  
縦断勾配：1.6%  
規 格：歩行者・自転車専用道路  
工事期間：平成11年6月～平成13年3月  
総工事費：約34億円

### 工法概要

ローゼ桁の施工についてはJR線13線の上空であり、JR敷地内に施工ヤードを確保できないことから、旧中山道を跨いだ東側に、幅20m、全長105mを借地し組立ヤードとした。ベント及び工事桁を組み立て、先端に手延機を設置したアーチローゼ桁を組み上げJR敷地内にベントを設置し、さいたまスーパーアリーナ側へ送り出した。JR線は夜間53分間の機電停止を行い、分速1.6mの自走式台車により全7回の縦移動を行い、アリーナ側に到達後、手延機を撤去し、架設ベント及び架設桁を解体してアリーナ側デッキレベルまで降下させ据付を完了させた。このようなアーチローゼ桁の送り出し工法は、過去に例のない新しい工法である。

### 事業の特徴

- (1) 氷川参道から、さいたま新都心「けやきひろば」までを結ぶ緑の架け橋として、鉄道上空には全国で初めての中木・低木等植栽を連続的に施し、さらに、市民参加型の植栽スペースとして市民花壇を設置し、地元ボランティアによる管理のもと、四季折々の花が植えられ『潤い・やすらぎ・親しみ』を感じさせる施設となるよう配慮した。
- (2) 新都心全体のバリアフリーが図られるよう、利用者を音声案内付サイン等により各施設に誘導し、エレベーターの設置、LED及び誘導ブロック等の設置により『人に優しい施設』となるよう計画した。
- (3) 夜間照明は、JRの車両運行の妨げにならないよう実験を重ねて光源の選択を行い、歩行者を安全かつ快適に誘導するためのフットライトを設置し、アーチ部及び橋上センター中木のライトアップにより、さいたま新都心にふさわしい『魅力ある橋』として都市景観を創造している。

受賞賛助会員 大成建設(株)